

議事録（案）

第五回 令和4年度 学校運営協議会（発信者ごとの要点記録）

日時：令和5年2月28日（火）14時30分～16時00分

場所：西東京市立田無第二中学校 会議室

出席：折田 和文委員（会長）、真鍋 五十鈴委員（副会長）、永井 昌史委員、
本間 孝子委員、三城 明子委員、勇 昇一委員、矢野 尊久委員、南川 広幸委員
片山 亮志教諭、井上 玲教諭、細越 富彦教諭、松井 喜祐

欠席：蕪尾 はるみ委員、澤頭 千恵委員、
委員10人中、8人出席により、本会議は成立

次第1 事務局より

・校長挨拶

本日はお忙しところありがとうございました。お陰様で大きな成果を得ることができました。中学校での難しい取り組みのうえ、コロナ禍ということもあり、職場体験など、とても難しく苦しい2年間でした。委員の皆様のおかげで何とか成果を上げることができ、改めて感謝申し上げます。

最後の企画として、学校と近隣地区の共同作業としての「ペンキ塗り」ができれば十分だと考えます。今年度は本当にありがとうございました。

次第2 協議会

・会長より

今年度最後の第5回学校運営協議会をよろしくお願ひします。

学校評価についても説明などあると思うのでよろしくお願ひいたします。

・第四回協議会議事録 議事内容確認

会長：前回の議事録について、訂正があれば副校長に申し出てください。数字など間違っていないければ内容的には問題ないと思う。

委員：出席者にオンラインと記載されているので削除をしてもらいたい。

委員：職場訪問の記載の中で訪問先名を住友重機とあるが、今後は住友重機械工業と明記してほしい。

会長：他に、気づいたところがあれば訂正していただくこととする。

第四回協議会議事録、承認。

会長：それでは学校評価について説明をお願いいたします。

校長：学校評価には8項目あります。

・主体的な学びの実現

先生と生徒には同じ説明をしています。教師の自己評価と生徒の評価の誤差はほんのわずかです。教員は48パーセントが「当てはまる」、52パーセントが「やや当てはまる」だった。ほぼ半分の教師しかが自信をもっていないというのは寂しいと思う。

もう少し「自信を持って工夫している」と言えると良いと思う。

授業アンケートでは、42パーセントの生徒が「教材や考え方に様々な工夫をしている先生が多い」と答え、「当てはまらない」と答えた生徒が3パーセントいた。子どもたちの評価は厳しいと思うので、先生方にはもうひと工夫が必要と考える。授業に面白みが欲しいと感じる。学力向上を引き続きやっていく必要があるかと思っている。

肯定的な回答は96パーセントと目標には達し、教員と生徒とはほぼ同率だったので、評価5を付けた。皆さんの評価をお聞きしたい。

会長：項目ごとに、A・B・C・Dでの評価をお願いします。

委員：成果目標として、生徒の平均的な学力は上がったのか。

校長：非常に難しい質問です。全国学力テストは3年生が対象です。今年の3年生に関しては平均的な学力向上は難しかったと言える。来年の調査では、今年度を上回ると良い。今ある実力を、どう伸ばすかというところにフォーカスしていきたい。

会長：この項目の評価 A・B・C・Dの中のAということで良いか。評価Aを認定する。

・情報活用能力の育成

教諭：研究主任です。情報活用能力の育成を西東京市より指定を受けて研究をしました。最初の段階では3本柱で進めていく方針を立てた。

研究発表会では、最初に取り入れたのが独自の情報活用能力育成モデルとして数学、英語を様々な方法で研究を進めた。教師が問題解決に向けて、「情報活用能力の育成」の内容を落とし込み、取り組むことができた。教師も生徒もこの2年間の研究で情報活用能力の育成には成功したと考える。

課題としては、言語活動能力なども含めて、様々な場面で育成する必要があると考える。

会長：ありがとうございます。これは昨年度から始まったと思うが、片山教諭は研究主任としては今年で終わりですか。

教諭：昨年と今年と務めています。

会長：この項目の評価をお願いしたい。A評価で良いですか。それでは、評価Aを認定する。

・個別最適化された学びと協働的な学びのバランス良い推進

教諭：教務主任です。個別最適化された学びについて、ご説明します。

授業において、目的に合わせて個別学習とグループ学習を適切に行うことができたと考えています。アンケートでは肯定的な回答は、96パーセントあり、生徒が考える時間と機会を意識的に確保した個別学習が効果的に活用された結果と考えています。

課題としては少数ではあるが否定的な回答をした生徒がいたことで、今後、協働的な学習に参加できるような指導工夫をする必要性があると考えている。

・ファシリテーターの育成

教諭：教師が授業目標を生徒に対し明確に示し、その達成に向けて生徒が主体的に学習に取り組む活動を意志的に行えるようなファシリテーターとしての資質育成を目標としている。教員の意識調査では肯定的な回答が96パーセントとなっており、生徒アンケートの結果も教員の意識を反映するように肯定的な回答が97パーセントとなっている。課題としては、生徒のファシリテーターとしての資質の向上が具体的に評価できるようにすることだと考えている。

校長：今の内容はかなり難しいので、この短い説明でご理解いただけたでしょうか。

会長：ご質問ありますか。

校長：個別最適化された学びとして、二中ではタブレット活用の研究をしている。教師がこの新しい教育の流れを理解していないとならない。

以下、校長先生により、個別最適化された学びについての説明があった。

会長：生徒アンケート回答で、「生徒主体の学習、学習ゴールの明確化、生徒発言率」に関する回答の中に否定的な回答4パーセントあるが。

教諭：多いのは、話し合いに積極的に関われない生徒で、その生徒をどうやって輪に入れるかが課題だと思う。全員が参加する授業にもっていければと思う。

会長：この項目もA評価で良いか。

委員：ファシリテーターとアンケート内容と結びついていないように感じる。

校長：アンケートの内容や取り方が良くないと感じるようでしたら、A以外の評価を付けてもらっても構わない。

委員：ファシリテーター能力を意図的に育成するのはなかなか難しいと考える。

会長：全員の資質向上は難しいと考える。評価Aで良いか。評価Aを認定する。

・心と体の健康

教諭：生活指導主任です。敬愛に相当する項目で、教育相談機能の充実、不登校やいじめの未然防止、虐待の早期発見につなげるために、速やかな情報共有や外部機関との連携を掲げている。これに対する肯定的なアンケート回答は92パーセントあり、否定的な回答は8パーセントあり人数にすると2人もしくは3人とみられ課題を感じている。

生徒アンケートの「先生は自分達の意見や悩みについて親身に応じてくれている」の問の回答には95パーセントの肯定的な回答が寄せられた。一方では5パーセントの生徒が否定的である。全校生徒が403名のうち約20名の生徒に匹敵する。大人に対して懐疑的に思っているのかもしれない。

委員：学校では次年度以降にやるべきことがあるのではないかと。例えば、定期的な部会、教育相談会、教員間の情報共有を密にすることが必要なのではないかと。

委員：生徒のちょっとした様子の変化など細やかなアプローチが大切だと思う。

校長：20名の生徒を学校だけで見守るのは難しいのが現状で、できれば地域でも見守ってほしい。

委員：資料のグラフの割合の数字が間違っている。

会長：虐待防止委員会といじめ防止委員会は週一回の開催か。教育相談部会と同じメンバーでやっているのか。

副会長：関係機関の協力が得られなかったと聞いているがどうということか。

校長：警察に相談した時、あまり協力的ではなかった。相手が特定されない状況だと協力するのが難しいといわれた。その後、協力してもらえることになった。

教諭：警察と速やかな連携を持つようお願いしようとする雰囲気もある。

委員：児童センターや外部機関と相談はしているのか。

校長：相談はしている。

副会長：先生方はもう少し感度を上げて、寄り添ってほしいと思う。地域の人間は下校など校外での様子を見守っている。

委員：生徒は「大丈夫だ」という繕った顔をしている。悲しさ、寂しさがあるのではと思う。地域でも見守りをする必要があると思う。

教諭：生徒に対しては一対一で面談をしている。「いたずらのつもりでも、気になることがあれば・・・」というような質問アンケートを取っている。

副会長：学校は対応をしているが、保護者が知らなかったということもあるのではないかと。保護者にもアピールすることも大切ではないかと。子どもの何気ない素振りとか言動から読み取れることもあると思う。

会長：いじめ防止委員会は何名なのか。

教諭：各学年2名の教員です。

会長：対象の生徒名は、他の先生にも伝わっているのか。

教諭：全教員にメールで伝え、既読確認も行っている

会長：対象者の増減についてはどうか。

校長：このような案件は2週間以内に解決するべきで、いじめについての認知などについて話し合っている。ただのふざけ合いは判別が難しいが、それほど多くはないが複数対一人の状況の場合は教育委員会に連絡をしている。

会長：生徒から情報が上がってくるとということか。

教諭：生徒からの情報は小さなことでも取り上げるようにしている。些細な変化等も情報共有している。

会長：そのような情報は保護者からもあるのか。

教諭：量としては少ないが、あることはある。20名くらいの心配な生徒もいる。

会長：評価に移りたいと思うが、A評価で良いか。

A評価に認定する。

教諭：目標について説明をします。

毎月「あったか先生研修」を行って再認識をしている。教員全員が「生徒の話を丁寧に聞き、受け止めている」と自信を持って100パーセント回答できるように意識を高めたと思っている。

生徒アンケートで「学校は全般的に楽しいか」という問いに対して、肯定的な回答は82パーセントと昨年度比較で増加傾向がみられた。今後も生徒が楽しいと思う環境づくりをし、あったか先生として生徒に寄り添っていきたいと思う。

生徒の名前を呼び捨てにしている割合が高いのが課題だ。アンケート結果では、一学期は11パーセント、二学期は16パーセントと増加傾向だったが、毎月研修を進めた結果、

三学期には8パーセントまで減少している。

授業だけではなく、一部部活動の声掛けも含めて、呼び捨てゼロを目指していきたい。授業では「さん」づけで呼んでいても、とっさの時には呼び捨てにすることもある。声掛けも含めて事例研修を行っている。

校長：とにかく生徒に寄り添いましょう。呼び捨てにしない。言葉から偏見や差別が生まれることもある。部活などで危険な時には、呼び捨てすることもあるかもしれない。でも生徒は呼び捨てされたと否定的に感じるかもしれない。

委員：本校と他校を比べると、2中は良い方だと聞いている。

委員：生徒を呼び捨てにすることが、いいとも悪いとも言えないと思う。

教諭：そう感じることもある。「君」ではなく「さん」付けにしている。

委員：「さん」づけをしたことで何か変わったか。

委員：授業を見学した時に、女子も男子も「さん」付けで呼ぶのだと驚いた。

教諭：「さん」づけをすることで、丁寧な対応が出来ているのは事実としてある。

会長：この件に関して、A評価で良いか。

A評価で認定する。

教諭：進路担当をしています。まず初めに、感謝の気持ちを伝えたい。自習教室、管理運営、夏休み補修教室のサポーター集めなどしていただき、とても有意義なことができたと思っている。放課後学習教室は2学期と3学期とも一回当たり40名程度の生徒が参加している。生徒も非常に有意義で勉強の習慣が定着するひと助けとなった。学校の評価がとりわけ低いと感じる。ひとえに私に責任があると思う。この活動が担当部署のだけの周知に留まり、教員間で周知されず全体への連絡や報告が十分ではなかった。

副会長：4月から始まって以来、地域と連携した学校運営が月ごとにいろいろとできただろうか。駆け足で進められた放課後学習教室は主にPTAが中心となって実施されていた。この活動で子どもたちの様子を知ることができる。生徒が教え合い、コミュニケーションをとれる、大切な活動と考える。学力向上などは別の効果がある。

委員：地域でもサポートを申し出てくれる人もいるが、誰でもいいわけではない。

委員：できれば、先生たちのサポートも欲しい。

教諭：教員は忙しくあまり余裕がないと感じる。具体的な要求があれば検討し取り入れていきたい。

委員：協力できるところは協力していきたい。

会長：放課後学習教室の活動は概ね高評価だった。

教諭：この活動の成果が周知されていないので、申し訳ないと思う。

副会長：入れ替わり立ち代わりでいいので、皆さんには一度くらいは来てもらえるとありがたい。より多くの先生方に来ていただき、一度くらい見てもらえると良いと思う。

会長：評価としては良いと思う。

委員：鈴木先生にも来てもらい感謝している。中学校ではなかなか見守ったりということが少ないのでとても感謝している。

校長：多くの人が学校に来るということに、二中愛を感じる。「気楽に来れる学校」が良い。

副会長：卒業生も機会があれば学校に来たいと言っている。

教諭：私達も卒業生から刺激を受けていてありがたかった。もっと日数を増やしたい。

副会長：今後、皆さんの要望をお聞きしながら進めていきたい。

会長：この項目はA評価で良いか。

A評価に認定する。

業務改善について本多教諭から資料に沿って説明。

会長：気になるところは改善してもらえるのか。

教諭：計画したうえで、変えることは可能だ。

校長：予算がないのが苦しいところだが、今回の改善は今までなかなか変えることができなかった環境改善だった。この評価は難しく、できないということであれば斜線でも良い。

会長：教員の意識調査で肯定的な回答は96パーセントで、この結果から成果目標はほぼ達成できたということだと思う。A評価で良いか。

会長：「学校応援団プロジェクト」としてのペンキ塗りプロジェクトだが、ボランティア募集はどうなっているのか。

校長：募集するためにも日程を決めた方がいい。また、仕上げられなかったときはどうするのか。

候補としての実施日時は 3月18日土曜日の午前中はどうか。

教諭：時間的な余裕もあまりないので、といえず知人に声掛けをする。

体育館の塗装をすること方向で指導をお願いしている吉田塗装さんに連絡する。人数がいれば、ローラーを使用して一時間程度で終わると思う。

会長：皆さん、どうですか。最低限の人数は10人程度で充分だろうか。それでは、3月18日の午前9時から10人程度の方を募集する予定を吉田塗装さんに連絡し決定した段階で、皆さんにメールを流してほしい。

校長：決定した段階で皆さんにメールを流します。皆さんもお時間が合えば、ぜひ参加をお願いします。

次第 3 事務連絡

校長：地域連携の学校運営の活動は例年も継続したいと思う。次年度の学校運営協議会委員メンバー、PTA会長は交代するが、今年のメンバーで申請している。次年度も継続ということでもよろしくお願ひしたい。

会長：それでは、皆様からひと言ずつのお言葉をいただければと思う。一年間ありがとうございました。

副会長：1月25日に農家の方の指導の下に耕運機で花壇を耕すことができた。地域の人も交えて、畑づくりだけではなく夏野菜なども育て収穫したりなど交流できると良いと思う。放課後学習教室では多くの人と関わることができた。今年度は本当にありがとうございました。

委員：この近所の会社代表として参加している。会社の地域貢献や社会貢献の一つとしての取り組みだが、私自身は何をしたかわからない。一年間ありがとうございました。

委員：今まで幼児、小学校、中学校、他校の小学校と関わってきたが、皆さんよくやってくれ、だんだんと根付いてきたと考える。幼児と中学生はかなりの違いがある。放課後学習教室に伺った時に生徒が覚えていてくれて声をかけてくれることが楽しみでもある。今後ともよろしくお願ひいたします。

委員：公民館で講座をやっても、中学生はなかなか参加してもらえない。ボランティアを通し地域活動にも参加し、一緒に地域づくりもしてもらいたい。中学生に希望が見えた気がした。

会長：ボランティア活動の畑づくりでどんな夏野菜ができるのか楽しみだ。

本年は誠にありがとうございました。

終了 16:00

来年度事前会議は4月5日（水） 13:30～

